

2013年9月ワークキャンプ@マニプール活動報告書

2013年9月ワークキャンプの開催

ソーシャルビジネスプロジェクトの注文していた商品の受け取り



2013年9月ワークキャンプを開催した。

【キャンプ日程】

2013/09/07-2013/09/21 (計15日間)

【メンバーと渡航日程】

梶田 恵理子・早稲田大学5年 (09/05-09/24)

加藤優人・武蔵野大学3年 (6月中旬ごろから渡航し、2か月ほどコロニーに単独滞在)

安田亜希・早稲田大学5年 (09/05-09/24)

河合笑子・社会人 (同上)

市川雄基・日本大学2年 (同上)

吉永昂平・玉川大学2年 (同上)

染谷季恵子・社会人 (同上)

【突然のキャンプ開催地変更】

今回のワークキャンプはもともと、これまで活動を行ってきたビシュナプールコロニーにて開催される予定だった。

しかしながら、7/11-7/25 に開催された panchayat election（地区選挙）の影響でビシュナプールエリアの治安が悪化したことから、日本人の入村・滞在の許可を取ることができないことになった。

そのため、急きょワークキャンプ開催の約 1 か月前の 8 月初旬に活動場所を変更せざるを得なくなり、当時加藤が滞在していたマニプールコロニーで開催することになった。

【プロジェクト詳細】

ワークキャンプ

◆ワークプロジェクト



・10軒の家屋の修繕

特に状態の悪い家屋を選び、主に屋根の修繕を行った。

具体的には屋根全体を覆っている竹、瓦やトタンを剥がし、新しいものに付け替えた。

→これまで雨が降ると必ず雨漏りしていた箇所を修繕することで村人が安心・安全に過ごすことができるようになった。

・ハンドポンプの修繕



※ハンドポンプとは：村に水道は通っておらず、村人は例外なく井戸を利用している。ハンドポンプとは、井戸上部に取り付けられている、手動で水を引き上げる装置のこと。水源まで掘り下げ、その穴をコーティングし、新しいハンドポンプを設置した。
→これまで遠くまで水を汲みにいかなければならなかった状態だったが、修繕することで苦労なく水を手に入れることができるようになった。

- ・パイプによる水路の設置

雨が降ると必ず冠水してしまう箇所があり、家屋が密集しているため、雨が降るたびに屋内に浸水し家屋や調理器具に被害をもたらしていた。

そこに水路を作り、その水路を近くの線路付近までパイプでつなぎ、水を排水させる排水水路を作った。

→冠水することがなくなり、衛生的にも安全な状態を作り出すことができた。

- ・本棚の作成

コロニー内にある2箇所の児童養護施設に本棚を作成し、設置した。

また、同時に日本で集めた洋書を寄贈した。

→自主的に英語の勉強をできる環境をつくり、自発的な学習を促すことができた。

◆エンターテイメントプロジェクト

- ・ハンセン病快復者の独居老人に対してパーティを行った。
- ・村人との運動会を開催した。
→外で遊ぶことの多い男の子だけでなく、女の子にも参加してもらうことができた。
おおよそコロニーのどのエリアの子供たちにも参加してもらうことができたので、全体で楽しめるイベントにすることができた。
- ・急きょ活動開催を受け入れてくれた村人に感謝の気持ちを込めてパーティを行った。



→日頃、空き時間にインドの伝統舞踊などを練習している女の子たちがいるのだが、人前で発表する機会がほとんど皆無であった。

そんな女の子らにパーティでは発表してもらうことで、自信をつけてもらうことができた。次回は男の子や大人にも積極的にパフォーマンスしてもらえるよう、呼びかけをしていきたい。

ソーシャルビジネス

事前にメールで注文していた商品を受け取った。

しかしながら、状態が芳しくないもの（インドは日本ほどクオリティに重きが置かれていないため）や、材料が集められなくて作れなかった商品があったので、それらを改善していくことが今後の課題である。